



人や国の不平等をなくそう

心のバリアフリーに取り組もう

障害があることではなく、障害のある人を含めたい社会に配慮していない社会にバリアがあります。



障害のある人が描いた絵画やパラスポーツ選手の活躍を見て、“障害があるのにえらいなあ”と思ったことはありませんか。障害のある人はかわいそうで、一方的に助けられるべき存在であるという考えは誤りです。

障害は、社会のバリア（障壁）と個人の心身機能の障害の両方で作り出されるものであり、社会のバリアを取り除くのは社会の責任です。このことを理解し、心身機能の障害についてよく学び、障害のある人とコミュニケーションをとって、社会のバリアによってどんな困りごとがあるのか気づくこと、そして実際にバリアを取り除く行動をすることが重要です。

一人ひとりが心のバリアフリーを実践して、バリアのない社会をつくっていきましょう。

心のバリアフリー

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支えあうこと



多様性を認め合おう

誰一人取り残されることのない社会はSDGsの基本理念です！



私たち人間は、人種や国籍、年齢、性別、性自認、障害の有無など、それぞれ異なる個性を持ち、一人ひとりに価値観、生き方が異なります。こうした違いを認め合い、多様な価値観や生き方を尊重することが大切です。

一人ひとりの違いを受け入れることで、私たちは自分らしく生きることができ、安心して能力を発揮することができます。また、人種や身体の特徴、考え方、得意・不得意が異なるからこそ、互いに助け合うことができ、新しいアイデアやイノベーションを生み出すことができます。

多様性を認め合い、誰もが生き方を選択し、自分らしく生きられる社会、アイデアやイノベーションを生み出し続ける強い社会を築いていきましょう。

すみ分けして対応する

同じ目線、画一的な考え方を良しとする



その他の取組

- 外国人と積極的にコミュニケーションをとろう
- パラスポーツに参加しよう
- 困っている人たちのために、ポイントを寄附しよう → ゴール1
- フェアトレード商品を購入しよう

NPO法人トルシーダ代表理事 伊東 浄江さん

外国人の子どもの居場所づくりや日本語教室などを行っています。日本で暮らす外国人は普通に暮らしたいと思っていますが、日本社会は閉鎖的で難しいのが現実です。まずは、そういう子どもたちがいることを知ることが大切です。そのためには、近所に住む外国人に話しかけてみる、放課後の遊びや部活動に誘ってみる、日本語教室やボランティア活動に参加するなど、外国人と触れ合うことが必要です。“あの人は外国人だから違う”とシャッターを下ろすのではなく、言葉や習慣、価値観などの違いに興味を持ち、楽しんでほしいと思います。外国人を“視野を広げ、生活や人生を豊かにしてくれる隣人”として受け入れてほしいと思います。

